

「グリーン成長戦略時代における新モビリティのビジネス展望とは？」

太陽光発電をワイヤレスで電動モビリティに充電！ 『青空コンセント』の開発



Technological Planner Inc.

モノづくりからコトづくり 地方創生事業の紹介

「姫島（ひめしま）」

- 大分県国東半島の北、瀬戸内海の西側に位置する離島
- ・古事記の女島（ひめしま）
 - ・日本書紀の比売語曾（ひめこそ）の神の島

住所	： 大分県東国東郡姫島村
面積	： 6.98平方キロメートル
人口	： 2,000人（897世帯）
観光客	： 約35,000人（H27年度）



姫島の特産品

7つの海底火山で形成された島、瀬戸内の海の幸に恵まれた美味しい車エビ



姫島車エビしゃぶしゃぶコース

天然車エビの海鮮丼と味噌汁セット



姫島エコツーリズム推進協議会の取組み

■ 設立趣旨

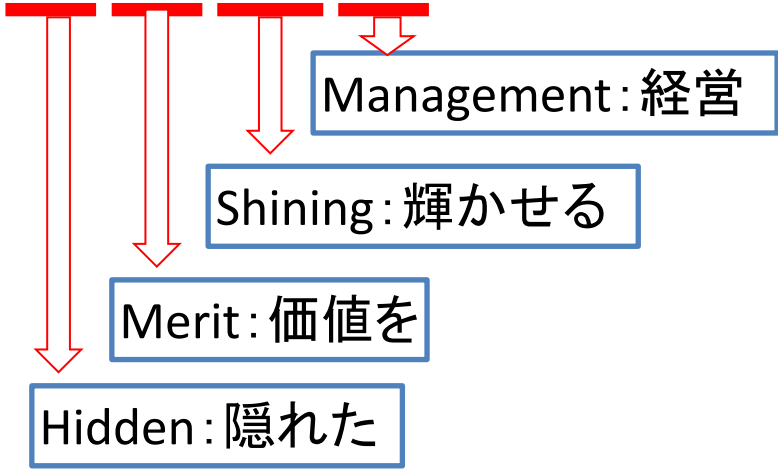
姫島エコツーリズム推進協議会は、美しい自然環境を守り、島民がいつまでも元気で豊かな生活を送るため地域コンセプトの『ひめしまモデル』を確立し、世界各地に広めることで、未来の子供たちに豊かな社会を繋いでいく。

■ 事業内容

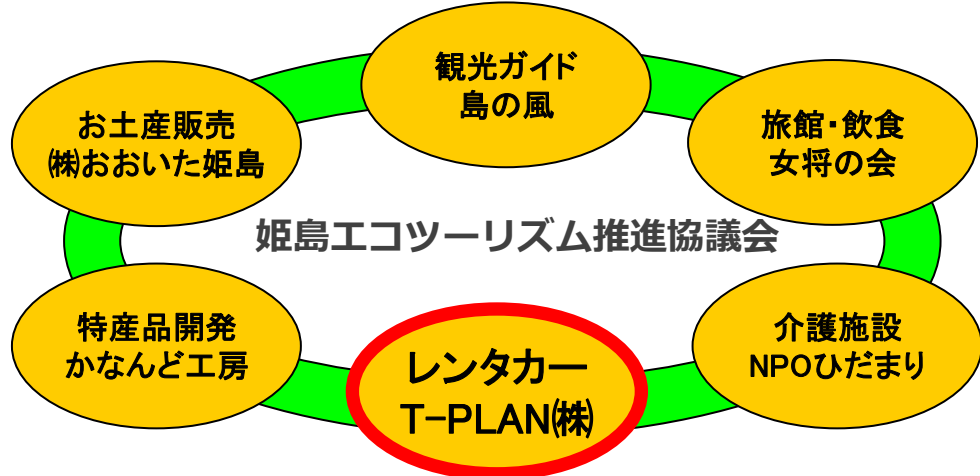
- ① **環境性**
エネルギーの地産地消で地球温暖化を防止
- ② **経済性**
観光振興による産業の発展と雇用の創出
- ③ **社会性**
高齢者のQuality of Life (QOL) 向上
- ④ **持続性**
ソーシャル・ビジネスで雇用の創出

地域コンセプト『ひめしまモデル』

Himeshima・Model



■ 実施体制



姫島エコツーリズム推進協議会の沿革

- 2014年 6月 姫島の環境保全と観光振興を目的に、姫島エコツーリズム推進協議会を設立
- 2015年 4月 1人乗り電気自動車（コムス：トヨタ製）3台、2人乗り電気自動車（NMC：日産製）7台を導入し、観光周遊レンタカー事業を開始
- 2016年 7月 4人乗り電気自動車（ランドカー：ヤマハ製）を1台を借用し、グリーンスローモビリティの実証実験を2年間開始する
- 2018年 7月 4人乗り電気自動車（ランドカー：ヤマハ製）を3台と7人乗り電気自動車を1台導入



取組み① 自然エネルギーの地産地消で脱炭素社会の構築

■ エネルギーの地産地消の実現

太陽光発電蓄電システム「青空コンセント」の導入

- 太陽光発電による超小型EVを充電
- 温室効果ガス削減による脱炭素社会への構築
- 非常時に有効な独立型電源

「青空コンセント」 姫島モデル



取組み② 超小型EVで二次交通の課題解決と地域活性化

■ 超小型EV活用を活用したエコツーリズム実施

観光客に超小型EVをレンタルしエコツーリズムを提供

→交通空白地域における課題解決

→エコツーリズムで観光客へ自然環境保全についての啓発

→エコツーリズム実施を通して、地域の観光産業発展



観光周遊ルート
(約17Km)



取組み③ 地域の新たな移動の創出

■ 電気自動車を活用した新たな地域の足へ

交通空白地域における高齢者の新たな移動手段として活用

- 自宅までのラストワンマイル問題の解決
- 自宅での介護者や施設に入居している高齢者の外出支援
- 高齢者のQuality of Life (QOL) 向上



地域の人とのふれあう機会が増える

友達とゲートボール場で久々の再会



■ 「Iターン就職」「女性活躍」に繋げる



可能性感じ姫島へ

エコツーリズム取り組む会社に勤務

今春、姫島村に移り住んだ伊井誉思香さん。姫島エコツーリズム事務所

新潟市出身の伊井誉思香さん(25)が移住

新潟市出身の新卒社会人、伊井誉思香さん(25)が今春、姫島村に移り住み、エコツーリズムに取り組む会社で働き始めた。人口2千人弱の同村でIターンは過去5年間に3人のみ。伊井さんにとって村は夢をかかなえるための「可能性にあふれた島」に映るといふ。公私でどっぴりと島に漬かるつもりだ。

高校卒業後、韓国のある大学に留学。ヨーロッパやアジアなどを訪れ、ボランティアにも力を入れた。卒業を控えた昨年、就職活動を通じて、姫島村でEVのレンタル事業を営む技術コンサルタント業「T・プラン」(中津市)と出合った。

同社は同村出身の寺下満さん(44)が社長で、「『お金ではなくお客さんのために』『島で事業展開し、貢献する』といった考え方にひかれた」といふ。今年4月に入社し、総務部をもちつた「創夢部」の名刺を手間と認められるために、まずは村に役立つ人間になりたい。

(中谷悠人)

「地域に役立つ人間に」

始めた青バイア栽培も任されている。伊井さんは留学先で「夢をかなえた人がその過程を伝える仕事」があると知り、憧れたという。カフェ経営、旅館のおかみさん、「関心の赴くまゝいろんな夢を実現し、将来、夢を持つ大仕事を伝えられるようになりたい」と話す。

知り合った村民からの飲み会の誘いなどには積極的に顔をだし、友人もできた。一方、地域の話題についていけずに涙したこともある。「家族や近所との付き合いが深い点は韓国と似ていて好き。本意の意味で仲間と認められるために、まずは村に役立つ人間になりたい」



低炭素杯2019

■ 環境大臣賞グランプリ 受賞

※2019年2月8日

※応募総数 全国1,425団体

